

北アルプストレイルプログラム（協力金）について

令和5年度以降の本格導入内容

①目標設定

- 「認知度」、「協力率」の向上を目標に、取組内容を経年評価する

②提示金額

- 基準額の見直し 一口500円を継続
- 免除対象について 子供等の免除対象は設定しない

③收受方法

- QR決済（J-coinpayなど）の導入
引き続き、導入に向けて検討を行い、目処が立ち次第、試行実施する
- 現金支払い地点の拡充
関係者と調整の上、現金での支払い地点の拡充を図る
候補は、
 - ・上高地バスターミナル周辺（登山案内所（営業日のみ）、IC、VC）
 - ・沢渡、平湯バスターミナル（施設管理者と要調整）

④周知方法

- 現地及び、オンラインでの情報発信を組み合わせ、低コストかつ持続性のある周知を行うため、
<恒常的な周知活動>
 - ・現地での周知：看板、ポスター、ラミネート、カード配布 ※カードは、7月中旬（海の日連休）に集中配布
 - ・オンラインで周知：各山小屋、行政機関のHP・SNS ※共通バナー、PR動画を導入し、取組の一体感を創出

⑤協力証導入

- 協力証を導入
※受け渡し方法
山小屋窓口で受け渡しを行う。
ただし、協力者の中で登山をしない方には、上高地ICもしくは上高地VC等の平場で受け取り可能とすることも検討
クレジットカード決済、口座振込の場合は、窓口で証明書を提示

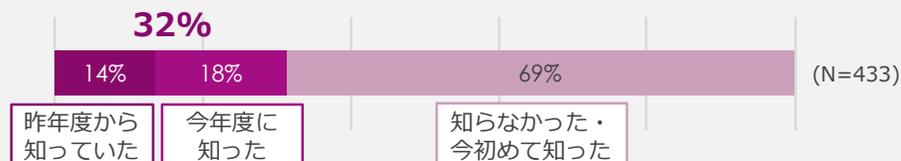
①目標設定

「認知度」と「協力率」の向上を、北アルプストレイルプログラムの当面の目標として掲げ、取組内容を経年評価する。（収受額増も重要な視点だが、増に特化することにより収受コストが大きくなり、また利用者の理解を得ないまま収受することによる満足度低下の可能性等を踏まえ、現時点では収受額を目標としては設定しないこととしたい。）

認知度

■北アルプストレイルプログラムを「知っている」と答えた利用者の割合

Q 北アルプス南部地域で、登山道の利用者に協力金をお支払いいただく取組を実施していることをご存知でしたか？



参考値：令和4年度北海道大学調査より

■調査方法

- 利用者へのアンケート調査を実施する。
- 調査は、現地（主要登山口）での聞き取り式を想定する。
- 大学等の教育機関、パークボランティア※と連携し、調査員を確保する。
- 協議会ウェブサイトには回答用ページを設けてオンライン回答も継続する。（ただし、設問数は10問程度に削減。集計作業を省力化するため、Googleフォームを活用することを検討。設問案はp7に記載）

※ 国立公園において、自然観察会等の解説活動や美化清掃、利用施設の簡単な維持修理などの各種活動について、広く国民の参加を求め、一層の活動の充実を図るとともに、自然保護の普及啓発を図ることを目的として、これらの活動に自発的に協力して頂ける方々を登録している。

出典：環境省HP (<https://www.env.go.jp/nature/park/volunteer.html>)

協力率

■算出方法

$$\text{協力率} = \frac{\text{登山道維持協力金の支払い件数}}{\text{利用者数（山小屋 + 野営場）}}$$

※参考）R4年度における協力率

$$2,590\text{件} / 114,523\text{人} = 2.26\%$$

■登山道維持協力金の支払い件数（4/17~11/15）

- クレジットカード決済、口座振込は履歴より件数を把握する。
- 協力金箱での現金支払い分は、合計金額を500円（基準額）で除した値を件数とする。

■利用者数（山小屋 + 野営場）

- 「国立公園事業施設の利用者報告書」に基づき、協力金箱を設置する山小屋、横尾野営場、洸沢野営場、槍沢キャンプ場を対象施設に、当該年度4～11月の7カ月を対象期間として、その合計値を利用者数とする。
- このため、日帰り利用者数が含まれないことに注意が必要。（日帰り利用者数の実態把握は、今後の課題として要検討）

①補足：アンケート調査の見直し

■ 見直しにあたっての方針

- 可能な限り多く、かつ精度の高いサンプルを得ることが必要。回答コストの削減、調査手法の改善を図る。
- 調査項目：取組を評価する上で最低限必要な項目のみに絞る（10問程度）
- 調査手法：現地（主要登山口）での聞き取り式を想定。大学等の教育機関、パークボランティア※と連携し、調査員を確保する。

■ 調査項目の選定

- 事業の到達点を「登山道維持が持続的に行われる状態」と設定し、そのために指標となる下記の項目をアンケート調査により評価し、事業達成に係る進捗状況の確認、課題の整理を行う。

< 調査項目 >

1. 現状に対する登山者の認知・理解
2. 取組（北アルプストレイルプログラム）の認知度、認知したきっかけ
3. 北アルプストレイルプログラムの中で協力してもよい行動、登山道維持協力金の支払い意向
4. 基本属性・登山属性（性別、年代、登山頻度）
5. 北アルプストレイルプログラムに対する要望・意見（FA）

①補足：アンケート調査項目案

R4年度 設問	トピック	設問	R5年度～ 採用案
1	現状の課題に対する認知	北アルプス南部地域では、行政機関だけでなく、民間の山小屋が登山道の維持*の作業を行っていることをご存知でしたか。	1
2	現状の課題に対する認知	現在、登山道の維持管理に必要な費用は、行政などの予算の範囲内では賅いきれない状況です。この不足分を、 民間 の山小屋が収益の一部から持ち出して、登山道を維持していることをご存知でしたか。	2
3	現状の課題に対する認知	近年、自然災害の多発や新型コロナウイルス感染症の流行など自然や社会の環境変化により、山小屋の経営状況が悪化しています。このことにより、これまでと同様の登山道維持ができなくなる可能性が生じていることをご存知でしたか。	3
4	現状の課題に対する認知	現在、北アルプス登山道等維持連絡協議会を中心に、「登山者の皆様へ～登山の心構え～」をウェブサイトや登山道案内板を通して、登山者の皆様に呼びかけています。「登山の心構え」を見たことがありますか。	×
5	協力してもよい行動	上記のような問題が発生している中で、北アルプス南部地域の登山道を今後も持続的に維持していくために、皆様に協力いただけることとして、例えば次のような行動があります。あなたが協力してみたいと思うものをお選びください。	4
6	取組への認知	北アルプス南部地域で、登山道の利用者に協力金をお支払いいただく取組を実施していることをご存知でしたか。	5
7	昨年の協力有無	昨年、寄付金をお支払いいただきましたか。	×
8	認知のきっかけ	今回の取組のことをどこで知りましたか。	6
9	支払い有無	「北アルプストレイルプログラム」の実施期間中（2022年4月27日～）は、対象登山道の利用有無にかかわらず、どなたでも協力をしていただくことができます。実施期間中に、登山道維持協力金をお支払いいただきましたか。もしくは、支払う予定がありますか。	×
10	支払う金額	お支払いいただいた／お支払いいただく予定の金額をご記入ください。※複数人数分をまとめてお支払いいただいた方は、1人当たりの金額をご記入ください。	×
11	支払う方法	お支払いいただいた、または、お支払いいただく予定の方法をお選びください。	×
12	支払い意向	今後も協力金は継続して集められる予定ですが、あなたは今後とも協力金を支払われる意向がありますか。	7
13	支払ってもよい金額	今回は、一口500円のお支払いを基準としていますが、導入や金額は関係者で検討しています。今後、あなたが北アルプス南部地域で登山をする時、登山道維持協力金として、1人1回の登山につき、いくら支払ってもよいと思いますか。	×
14	登山実態	「北アルプストレイルプログラム」の実施期間中（2022年4月27日（水）～）、あなたは下の地図の色塗りの登山道の範囲（槍穂高・常念山脈エリア）に行きますか。	×
15	登山実態	「北アルプストレイルプログラム」の実施期間中（2022年4月27日（水）～）に利用した、もしくは、利用する予定の登山道や園路を全てお選びください。なお、選択肢の番号は上の地図上の番号と一致します。（いくつでも）※実施期間中に複数回訪れる場合は、直近の登山についてお答えください。	×
16	登山実態	登山開始日	×
17	登山実態	下山日	×
18	登山実態	入山口	×
19	登山実態	下山口	×
20	登山実態	訪問人数	×
21	登山属性	登山歴	×
22	登山属性	登山頻度	×
23	登山属性	これまでの北アルプス南部地域の槍穂高・常念山脈エリアへの登山経験	8
24	登山属性	あなたは北アルプス南部地域の槍穂高・常念山脈エリアを毎年訪れますか。	×
25	登山属性	あなたは平均して、年に何回程度、この地域を訪れますか。	×
26	基本属性	性別	9
27	基本属性	年齢	10
28	基本属性	居住地	×
29	意見・感想	北アルプス南部地域の登山道維持の問題や今回の取組「北アルプストレイルプログラム」に関するご意見やご感想があれば、ご自由にお書きください。	11

②提示金額

北アルプス登山道等維持連絡協議会で再度協議を行った結果、

- 基準額は一口500円を据え置きとする（実証実験期間中と変更なし）
- 免除対象は設定しないこととする（実証実験期間中と変更なし）

利用者に提示する基準額の設定

< 検討課題 >

- ・基準額を一口1,000円にしてはどうか？

■考え方

- ・北アルプストレイルプログラムにおける「費用面での参加＝登山道維持協力金の支払い」は、あくまでも利用者一人一人の判断に基づく「任意の支払い」であり、支払う金額（いくら分の協力を行うか）も、利用者の判断（自主性・納得感）に委ねられるものである。
- ・令和3年度、令和4年度のいずれも、クレジット決済、口座振込は1,000円（2口分）の支払いが最も多かった。
- ・一方で、山小屋での現金支払いは、小銭（500円未満）で支払う利用者が多く、お札での支払いは少数の状況であった。
- ・一口1,000円とすることで、500円以下で支払った協力者が支払いにハードルを感じてしまう懸念があり、協力金の持続性等を考慮すると、令和5年度以降も「一口500円」で運用することが望ましい。

免除対象の設定

< 検討課題 >

- ・子供は免除対象として、将来的に支払ってもらえることはどうか？
（保護者から子供に登山道維持について伝えてもらうことで免除）

■考え方

- ・免除対象を設定してしまうと、対象者以外にかえって強制感を与えることが懸念されるといった、利用者の混乱を招く可能性があり、問合せを受けた場合の現地での説明（山小屋等の施設スタッフによる応対）に負担がかかることが考えられる。
- ・このため、北アルプストレイルプログラム（協力金）の趣旨に沿って、免除対象は設定せず、子供であっても支払いの意思等は利用者一人一人の判断に委ねることとする。
- ・ただし、子供視点であるため、免除以外に何かできることが無いかが検討を続けたい。

③収受方法

北アルプス登山道等維持連絡協議会で再度協議を行った結果、

- QR決済等の支払い方法の追加に関しては引き続き検討する（実証実験期間中と変更なし）
- 関係各所と調整の上、現金での支払い地点の拡充を図る（実証実験期間中から拡充）

QR決済の導入

- 調査した結果、各社のガイドライン・規約に抵触することなく導入することが可能なQR決済は、現時点ではJ-coinpay（みずほ銀行提供）のみである。
- J-coinpayは他のQR決済サービスに比べユーザー数が大幅に少なく、対象エリアの登山道利用者への普及率が限られると考えられることから、現段階での導入による効果は限定的。
- 他の山域での導入例や、QR決済制度の動向等を確認しながら、引き続き導入の検討を重ねることとする。

参考

- 令和4年6月より開始となった「大山入山協力金制度」では、J-coinpayを活用することで、電子決済による支払いを受け付けている。
- 募金箱設置箇所等でバーコードをスマートフォン等で読み取ることで支払いが可能。



現金支払い地点の拡充

■追加する地点（案）

- ① 上高地バスターミナル周辺（登山案内所／VC／IC）
- ② 沢渡バスターミナル：施設管理者と要調整
- ③ 平湯バスターミナル：施設管理者と要調整 など

■令和5年度の現金支払い予定地点一覧（案）

山小屋22軒

- 燕山荘
- 大滝山荘
- 大天井ヒュッテ
- 合戦小屋
- 涸沢小屋
- 涸沢ヒュッテ
- 北穂高小屋
- 常念小屋
- 殺生ヒュッテ
- 大天荘
- 岳沢小屋
- 蝶ヶ岳ヒュッテ
- 徳本峠小屋
- 西穂山荘
- 穂高岳山荘
- ヒュッテ大槍
- ヒュッテ西岳
- 南岳小屋
- 槍ヶ岳山荘
- 槍沢ロッジ
- 焼岳小屋
- 横尾山荘

追加調整先

- 上高地バスターミナル周辺（登山案内所、VC、IC）
- 沢渡バスターミナル※
- 平湯バスターミナル※ など

※施設管理者と要調整

④周知方法（令和4年度第1回検討会より変更なし）

- ①現地で直接登山者に呼びかけるもの、②HP等オンラインで幅広く発信するものの大きく2種類について、複数の広報媒体を活用して情報を発信。また、山岳関係のマスメディア等への働きかけも可能な範囲で実施。
 - ①現地での広報媒体：看板（登山口）、ポスター（沢渡・平湯BT、バス車内、上高地線、新島々駅）、ラミネート（山小屋、登山相談所、公衆トイレ内（沢渡、横尾など））、カード（山小屋、上高地）
 - ②オンラインの発信ツール：北アルプストレイルプログラムHP、北アルプス山小屋友交会の各山小屋HP・SNS、関係機関HP等
- なお、現地での広報媒体のうち、カード配布は山小屋での手渡しのほか、登山者が多い時期に集中配布。
 - － 7月上旬：北アルプス登山道等維持連絡協議会としてプレスリリース
 - － 7月中旬・海の日連休1週間前：各山小屋HP・SNSで一斉発信、北アルプストレイルプログラムHPで発信

【共通バナー、PR用動画等の導入検討】

- R3-4年度の実証実験結果から、山小屋HPでの情報発信は安定して一定の効果があることが示されたことから、今後も主要な発信ツールの1つとして活用していけると良い。
- その際、共通のロゴやリンクバナーが全てのHPにあると、エリア一帯での取組であることが伝わりやすくなる。

例：
山梨県HP

9 関係機関の皆様へ（リンクバナー）

当該ページにリンクを頂ける際には、下記のバナーをご利用ください。



最小基本サイズ 横45mm、縦16mm

(<https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/kyouryokukin0226-2.html>)

【現地での広報媒体デザインの改善】

- 現在作成されている広報媒体は説明文メインとなっているが、北アルプストレイルプログラムとその中での協力金の取組を図化したものを掲載することで、理解度の向上を図る。
- なお、取組に関する詳細の説明は、北アルプストレイルプログラムHP上に集約し、HPへ誘導する。



←利用者参加制度のイメージ図を入れて分かりやすく

←裏面は、登山道の歩き方、自己責任といった普及啓発に特化した内容の要否も検討

⑤協力証導入

北アルプス登山道等維持連絡協議会で再度協議を行った結果、

- 協力証を導入する（実証実験期間中から変更）
- 受け渡し方法は、山小屋窓口で受け渡しを行う。
クレジットカード決済、口座振込の場合：証明書（支払い通知メール、入金レシート）を提示

協力証の導入

■協力証を導入するメリット・デメリットの考え方

登山道維持費の確保	△	一部が協力証にかかる費用（直接費、人件費）に充てられる
手配にかかる事務作業	△	事務作業量の増加（デザイン、発注・補充、在庫数管理、受け渡し）
取組の話題性	○ ～ ◎	取組そのもののアイコンとなり発信効果が見込める（写真に撮って登山者や記者が発信する素材となる）
登山者のモチベーション	○ ?	コストかけてまで作成することに疑問を感じる利用者がいる可能性あり

令和4年度第1回検討会より再掲

受け渡し方法

■受け渡しのオペレーション

- 受け渡しは「山小屋窓口」で行う。ただし、協力者の中で登山をしない方には、上高地ICもしくは上高地VC等の平場で受け取り可能とすることも検討。
 - 山小屋でのみ受け取り可能とすることで特別感を創出することができるが、山に入る人しか受け取ることができない、山に入らない人は受け取ることができないといった、同じ協力金を支払った行為に対する不公平感が生じてしまう。
- 郵送対応はしない
 - 協議会では、口座振込で一定額以上の方に感謝状の郵送対応を既に行っている。しかし、協力証で問合せ対応や郵送対応を行うと、事務作業等のコストがかかり、採算性の懸念や調整が困難であることが予想される。

R4年度内に協議会で詳細な仕様を検討

（できるだけコストをかけず、参加モチベーション（参加意欲・満足度）を高めるデザイン）

⑤補足：協力証のイメージ（具体的なデザイン、記載内容は要調整）



オモテ面

—— 北アルプス南部地域 登山道の維持活動の実情 ——

当地域の登山道は、山小屋と行政が協働し、維持補修活動を山小屋が担っています。行政の予算支援もありますが、ほとんどは山小屋の収益からの持ち出しによって何とか成り立ってきました。しかしながら、宿泊定員の削減、豪雨災害の増加、ヘリ代の上昇等により、登山道維持活動とそれを担う山小屋事業の存続が危ぶまれています。そこで、登山者の皆さんにも協力金という形で参加していただき、登山道を未来に残していくための持続可能な枠組みづくりを目指す試みを行っています。

—— 登山の心構え ——

1. 登山は「自己責任」です。登山道であっても山には安全が確保された場所はありません。
2. 山岳地域にいる間は、常に周囲への気を配り、自ら安全確保に努めてください。
3. 天候の急変、道迷い、体調不良、力量を超える難所に遭遇した場合は、引き返すこと。
4. 登山計画書は必ず提出し、行動中は携帯。コピーを家族や知人にも渡しておくこと。
5. 早出早着、適切な服装・装備、地図携帯を忘れずに。
6. 自然に優しく。登山道から外れず、無雪期はストックに保護キャップを付けること。

北アルプス登山道等維持連絡協議会



ウラ面

・サイズ クレジットカードサイズ または A8 サイズ

・紙の仕様

用紙： 間伐材紙(仕様上、白ではなく薄いベージュ)、もしくは再生紙

厚さ： 135kg(名刺程度の厚さ)

加工： 両面ラミネート加工(PP加工、撥水効果あり)

可能であれば、細引きなどを通して、ぶら下げられるように穴を設けることも検討中。

・表記内容

表面：山のイラスト(年ごとに変更)

例) 槍ヶ岳→燕岳→乗鞍岳→奥穂高岳→燕岳→北穂高岳

裏面：登山道維持の現状や登山の心構えについて(QRコードも活用)